

9/17 早稲



読者から

2016-9-17

# 論説

## 不断の努力かみしめて

貴重な「意見をたくさんいただいた」  
 き、心から感謝します。  
 「慎重して」の「ついで」で、  
 金沢市の女性団「集団的自衛権の  
 名のもとでの国際平和活動(戦  
 争)への参加、国家緊急権の乱用  
 による独裁への道などが憲法改正  
 によって現実のものとなるかもし  
 れない」と書きます。

改憲が既定路線になつてはいない  
 いか、それに対する恐れです。匿名  
 名の方は「本当に憲法を改正した  
 いのであれば国民に正面から訴  
 え、何をどのように改正するのか  
 丁寧に説明すべきだ」としたうえ  
 で、「そもそも憲法改正論議が国民  
 の側からではなく出てきていな  
 い」点から疑問を呈しています。

改憲の切実な事情があるのか不明  
 だからです。埼玉県新庄市の男  
 性からは「私たちの周りにも改憲  
 論者はいます。それは(憲法施行  
 から)長すぎるから、一度変えて  
 みれば」といった意見が多いと教  
 えてもらいました。でも、憲法公  
 布から七十年。人権宣言は「百年  
 以上も尊重されています」。

戦争放棄を定めた九条の改正には  
 不安視する声が多く寄せられま  
 した。ある女性は「私の父はフィ  
 リピン・ルソン島で戦死。二度と  
 戦争を起こしてはならないと、苦  
 労を重ねた母は私たちに言い残し  
 て、九十四歳の命を閉じまし  
 た」。ある男性からは「戦争は人  
 の心を鬼にします。多くの戦友が  
 戦病死。無事帰れた私は運の良い  
 男です。二度と戦はしない、九条  
 を守る、私の務めです」。戦争を  
 知る人こそ意見でしょう。

それに対し、名古屋市昭和区の  
 男性からは北朝鮮のミサイル報道  
 に接し、「自前の国産の憲法を制  
 定する必要を感じた」と言いま  
 す。石川県加賀市の男性(60)も  
 「平和憲法など」と金科玉案のよう  
 にありがたがっているが、日本の  
 周囲に存在する「困った隣人た  
 ち」がそんな崇高な理想を付度し  
 てくれるかどうかが「疑問を投げ  
 かけます。それも理解できます」。

九条は理想で現状にそぐわない  
 という批判がありますが、東京都  
 昭島市の男性は「こう考えます」。  
 「理想と現実とは絶えず乖離する。  
 現実と理想をなじませるのではな  
 く、少しでも理想に現実を近づけ  
 るよう努力すべきだ」

他にも「改憲ありきの議論に乗  
 せられるな」「国民の無関心こそ  
 なくせ」「戦後の歴史の教訓か  
 もしれません。不断の努力こそ求  
 められます。読者のみなさんの声  
 を大切に、改憲論の行方を注視  
 していきます」。